児童・生徒の地元への理解・愛着・誇りを育むための取組 ~小中高キャリア教育合同発表会を通して~

北海道寿都高等学校 学級数3 (校長 苅屋 正人)

1 取組の趣旨

寿都町の小中高キャリア教育合同発表会では町内の小学校2校、中学校1校、高等学校1校が合同で各校における1年間のキャリア教育の成果を発表している。本発表会は寿都町の未来を担う世代が、今後の寿都について意見発表を行うことで、地域の活性化を担う人材の育成を図ることを目的としており、2016年(平成28年)から寿都町教育委員会を中心に構成されている「町小中高連携推進委員会」が企画し、実施している。

2 発表会の内容

(1) 小学校2校の発表概要

潮路小学校の6年生は、寿都町の第2次世界大戦時の被害状況や、神社・寺院の歴史、鉄道、ニシン漁の創成期から現代に至るまでをまとめ、発表した。寿都小学校の6年生は医師や保育士など、様々な職業にインタビューしたことをまとめ、働くことの魅力を伝えた。

(2) 中学校の発表概要

寿都中学校の2年生は、様々な寿都町の観光振興策を考案した。町の特産であるバジルを使用した新メニューを開発し、札幌市内で実際にバジルのPR活動を行ったことを報告。その他には、町内での食べ歩きスタンプラリーや釣り大会の開催などを提案した。

(3) 高等学校の発表概要

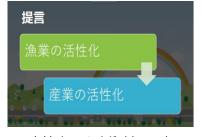
寿都高校の1年生は、地域探究プロジェクトとして寿都町の課題である人口減少及び漁業関係者の減少とSDGsを関連させ、地域の活性化へ向けた提案を行った。漁業の活性化に向けて、育てる漁業の推進が有効であると考え、新たな取組としてアワビ・ウニの養殖推進や、漁業関係者に対して補助を行うことで新規に漁業を始めやすい体制を構築することを提案した。漁業関係者が増加することで、漁獲量が安定し、町の活性化や人口増加、町民の幸福度上昇につながっていくのではないかとのアイデアを発表した。

(4) 小中高キャリア教育合同発表会の成果

小学校、中学校、高等学校のそれぞれの校種が1年間のキャリア教育の成果について発表を行うとともに、自由で活発な意見交換を行うことにより、子どもたちが町の未来について発達段階に応じて主体的に考えることができた。また、合同発表会の最後には寿都町の片岡春雄町長から、「町の発展に皆さんのアイデアを生かしたい」と講評をいただくなど、生徒は自分たちの様々な提案や行動が町の発展につながっていることを実感している様子が見られた。



小学生の発表資料の一部



高校生の発表資料の一部



発表会の様子

3 今後の取組に向けて

今後は、1年間のキャリア教育を進めていく中で、各校種が連携しともに学習を進めて、より学び を深める機会を設けることが可能か検討する。

ここ数年は、オンラインでの開催となっているので、今後、集合で開催する際には、各校種がより 活発に交流できるような工夫が必要である。